

建設業界 迫らね

——専門工事の企業評価についての考えを。

井上 職人さんに焦点をあてるべきでしょう。それら職人さんで専門工事企業は成り立っているわけですが、発注者が直接、専門工事業者を評価するわけがありません。しかし、職人さんが働くそれぞれの現場でどういった成果を出してくるかを見たい。

北浦 かつて親方は、誰のお陰で仕事ができるのかと職人に言っていたが、今は職人がいないと親方も仕事が出来ない。私自身、そういう気持ちに変わってきた。職人が良くなるしないと親方も良くなる。そう意識を変えなければいけない。そういう意味で職人に焦点を当ててほしい。

これまでも国は、いろんな施策を行っていますが、目に見えて成果がない状況にあると思っっている。特に民間工事の場合、元請は発注者に対してどうしても立場が弱くなる。お金だけなく、少々無理な工期であっても対応せざるを得ない。発注者が示す工期ではできないと言えば、それじゃあ別の業者に発注すると言われてしまう。結

北浦会長 親方が推薦する職人表彰制度に

局、やるしかない。民間ころがあれば逆に悪い部署者はいらぬが職人がいない仕事に関しては行政も口分もある。それを見出しできないことは分かっていかなければならぬが、例えば、工期設定については建築確認申請です。工期の設定でも、請で厳密にチェックすることでも考えてもらいたい。

井上 民間工事でも、マンションなら住民のことを考えたり、工場やオフィスでもそこで働く人や周辺のことを考える必要はあります。エンドユーザーは国民であり、そこを施主がどう考えているのか、あるいはどのように考えを変えて行けるか。

北浦 今、大阪では方博やIR誘致を進めているが、万博が決まりIRが決まっても工事ができると比べて安いとのイメージがある。確かに建設



井上部長

メンテナンステキな企業体力を

は、登録基幹技能者なら年収五百万円、さらに上級職長クラスでは一千万円でもおかしくない。優秀な資格技能者と一般の技能労働者を区別して考えないといけない。一緒にするから資格技能者が損をしている。これは請負でも固定給でも同じです。

井上 そのあたりの区別を建設キャリアアップシステムなり資格で分けたい。これが必要と思います。

北浦 また、表彰制度も考えてほしい。現行制度の多くは元請の推薦によるものだが、親方が推薦する方式に変えてもらいたい。表彰によって良い方向に変わる人もおり、職人にとっては励みにもなり、それも一つの教育になります。

井上 我々も、自分のところの職人が表彰を受けるような業者は評価できないとの考え方を必要とする。建専連でも必要がある。建専連でも情報交換をし合って、他地区でも良い施策があればおり、そういった職人さんを今の現場に配置して、安全と

井上 今後は、改修工

この分野に職人を振り分けることを真剣に考えるべきだ。たとえ小規模なインフラ補修工事であっても、自らが元請として受注すれば職人の処遇改善にもつながるはずだ。経営の安定化も図れる。

また、これからの専門工事業者は、職種の縦割りにとられずいろいろなことが出来るようになるべきかといいたい。大きな建物ばかりを狙わず、専門工事業者が生きていくためにはどうすべきかという視点で発想を転換する必要はある。

北浦 おっしゃる通り、専門工事業者はもとより、メンテナンスの市場に目を向ける必要があります。特に、たくさんの人を抱えている業者は、

——本日は、有意義な話を伺うことが出来ました。これからも業界発展のためにご尽力をお願いします。ありがとうございました。

井上 今後は、改修工

確保の手い担る

技能者評価始まったばかり

キャリアアップ 有用な制度

北浦 会長

——これまで技能者をの取組みも始まったばかりで結果が出てくるのは

評価する視点での発注方式はありましたか。まだ先の話で、結果次第

井上 ないわけではあではない。ではどうなるかも分から

りませんが、これほど明確に打ち出した方式はあ

りません。技能労働者による浸透するには数年、場合

によっては10年後や20年後のものもあります。技能

者評価については始まったばかりですが、今年

からは、手の打ちようの試験の中でよい成果が出

てもなく、今からやっておれば、次にステップアップ

できないと間に合わなくプしていけます。

北浦 その考えについて、今でも遅すぎると

思っています。そういった意味から、建設業界を

支える全体像をみた上コンテストにも当てはめ

で、施策展開を図っています。コンテストについては、職人を

の取組みも始まったばかりで結果が出てくるのは

評価する視点での発注方式はありましたか。まだ先の話で、結果次第

井上 ないわけではあではない。ではどうなるかも分から

りませんが、これほど明確に打ち出した方式はあ

りません。技能労働者による浸透するには数年、場合

によっては10年後や20年後のものもあります。技能

者評価については始まったばかりですが、今年

からは、手の打ちようの試験の中でよい成果が出

てもなく、今からやっておれば、次にステップアップ

できないと間に合わなくプしていけます。

北浦 その考えについて、今でも遅すぎると

思っています。そういった意味から、建設業界を

支える全体像をみた上コンテストにも当てはめ

で、施策展開を図っています。コンテストについては、職人を



資機材も持たない業者は、調査をして

論外で、資格を持った職制より、元請から下請

人がおり、保険にも入っ末端の作業員までがちゃ

ているような業者をモデルケースにして検討して

ほしい。最近では、技能資と明言できる請負体制を

格に対する職人の関心が適正に評価することの方

高まってきている。資格がよいのではないかと

思っています。

——建設キャリアアップシステムについて。

北浦 これは良い制度

だと思っっている。ただ、

——やはり品質面も重

視される。

北浦 これまで職人が

ていますが、調査をして不備を指摘するような体

制より、元請から下請末端の作業員までがちゃ

んと賃金受け取っている格に評価することの方

高まってきている。資格がよいのではないかと

思っています。

——建設キャリアアップシステムについて。

北浦 これは良い制度

だと思っっている。ただ、

——やはり品質面も重

視される。

北浦 これまで職人が

ていますが、調査をして不備を指摘するような体

制より、元請から下請末端の作業員までがちゃ

んと賃金受け取っている格に評価することの方

足らなくなると機械化やPC化が進んできた。今

ではロボット化への取組

みも始まった。しかし、

そうなるもそれを使い

こなせるような職人にな

ることで時代に対応しな

ければならない。

職人を育てるには時間

はかかるが、努力すれば

一定のレベルまでには到

達できる。あとは信頼の

問題で、職人が親方を信

頼し、ついて行くことが

できるかどうかだけ。た

だ、そこが一番難しい部

分でもある。さらに腕の

良い職人と一般の技能労

働者を区別する必要もあ

る。そこをこつちやにす

るから、腕の良い職人が

損をする羽目になって

いる。法律を守る正直者

が馬鹿を見ることがな

いように、そこを行政が

しっかりと評価してほし

技能労働者

工事平準化をリード

井上 部長

現場 従事者 評価型に感謝

北浦 会長

次に人材確保に關 在化した状況でなく、年 不足している。とび工や 間を通じて平準化するよ 型砕工に比べ土工は、も 行つた現場は殆ど赤字だ

井上 政策でかなりリ ードしている部分があ います。これには、 費等は同じように掛かる ザヤが違つてくる。二次

公共土木の発注行政とし ていくことが必要です。 が、能力給は別として基 以下の下請は、そうやっ

て推進していくことで、 そうしないと掛け声だけ おいてはコンクリート工 一方、国の方針もまだ

建設業界全体をその方向 へと先導していくことを目 すれば無理なわけで、そ らず、土工不足が顕著に

指していきます。また、 こに取引組んでいくこと がつてきています。 土工は、ある程度技能

給制の技能労働者は流動 性がありますが、月給制 は仕事をしなければできな きた部分はある。技術の

に移行するのであれば、 年間を通してある程度一 定の受注量が必要です。 仕事を継続すること

これまでのように前半 が前提になる。土工の話 すればするだけ親方は儲 まった現場まである。実

半に増えていくような偏 工、土工が からない。実際、出面精 際のところ、この辺りを

改善しない限り前には進 まない。是非とも、大手 ゼネコンには範を示して

いた方がいい。あわせて 国にも協力をお願いした い。

井上 現在、職人が充 足している近畿において、 ゼネコンが下請を叩いて

いる状況ならば実質賃金 が上がらない。そうなる と実態調査した我々の設

計労働単価も上がらない という循環が悪くなりま てることだ。そういった

す。オリンピック・パラ 意味では、親方の仕事が 分かつていない者も多い。

リンピックや震災復興と いても、旅費や宿泊費 を考えると、全体的には

まだ浸透していない。例 えば、繁忙期には、現場 所長から下請に対して

「とにかく人を集めてこ 仕事をやりたいはずで、 まずは発注行政として必 要な事業費を確保し、オ

北浦 やは親方の仕 行つておられますが、 特に四国や中国、九州地 区の西日本でも驚いてい

ます。また、資格を持っ た職人の意欲を向上させ たいということも分かつ

ています。その成果とし て、良い技能労働者が携 帯することにもなる。この

た 建専連に対しては、そう しては資格取得を促してい

や 評価されることによ り、若い人がそんな先輩

を見て、自分も先輩のよ うになりたいと思つてい

ただき、これから建設業 を目指す人達もそう思う

より元請が意識してもら いたいです。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。

井上 今回の取組みに たい、これからは建設業

が、国が実施することに 大きな意義がある。